

III 留学生支援ボランティア (年次報告(平成24年度後期・25年度前期))

著者	熊井 浩子, 袴田 麻里
雑誌名	静岡大学国際交流センター紀要
巻	8
ページ	132-133
発行年	2014-03-04
出版者	静岡大学国際交流センター
URL	http://doi.org/10.14945/00007699

Ⅲ 留学生支援ボランティア

熊井 浩子／袴田 麻里

留学生支援ボランティアは平成14年度より活動が始まったが、25年度は9月現在で静岡キャンパス72名、浜松キャンパス41名、計113名となっている。静岡キャンパスでは、24年度前期に、全登録者に改めて継続の意思を確認した結果、数は大幅に減少したが、新たな登録者数の確保に力を入れ、一定の数まで回復していると言える。そのうち4名が留学生である。平成25年度前期までの部局別登録者数は、以下の通りである。

年度	人文	教育	農	理	工	情報	合計
15年度	7	22	8	0	4	5	46
16年度	24	21	8	5	5	6	69
17年度	13	26	5	10	7	6	67
18年度	19	44	5	4	16	6	94
19年度	29	46	6	3	9	5	98
20年度	43	40	7	3	19	4	116
21年度	36	31	5	5	20	6	103
22年度	40	35	4	6	26	14	125
23年度	46	30 + 2	6 + 1	6 + 2	13 + 5	11	122
24年度	18	23	5 + 1	5	20 + 10	13	84 + 11
25年度	39	23	4 + 1	4	20 + 9	12	103 + 10

* +の前が学部生、あとが大学院生である。+がないものは学部生のみ。

留学生支援の主な活動内容は以下の通りである。

1) 日本語教育支援

国際交流センターで行われている日本語授業に参加し、留学生の日本語学習を支援する。具体的には、会話の相手、討論会での意見交換、異文化授業への参加、留学生発表会の見学などがある。その他、授業外に日本語の勉強のサポートや会話のパートナーになってもらう例もある。静岡キャンパスでは近年はこの会話パートナーの希望が増えている。

2) 生活支援

日本に慣れない留学生のために、日本の生活を紹介する。友人を紹介したり、街の中を案内したり、買い物を手伝ったりする。

3) 日本文化紹介

日本に関係することで、得意なこと、好きなことを留学生に披露する。特に、茶道や書道、柔道や剣道、折り紙やあやとりなど、伝統的な日本文化を留学生に伝える。

4) イベントへの参加

国際交流センターで企画するイベントに主催者側または参加者側として参加する。

これらの支援活動は、留学生支援が必要となったり、交流活動があったりする場合、Eメールによって登録されたボランティア学生に直ちに連絡され、都合のつくボランティアが参加するという形をとっている。また、年度始めには、キャンパスごとに全員が集まって、説明会が開かれている。静岡キャンパスでは、上記のような活動のほかに、サマースクール（6月下旬～7月上旬実施）で来日する留学生のために支援グループを募り、3週間にわたって交流活動をおこなった。また、10月と5月にはボランティア学生と留学生との交流会（静岡キャンパス）が開催され、交流を深めた。この他にも、会話パートナー、校外学習や日本語授業に参加するなど、活発な交流が行われている。

浜松キャンパスでの留学生支援ボランティアは、25年7月に同好会登録をし「ヴォラール」という名称で活動することになった。主として交流イベントの企画・参加が非常に活発に行われた。4月、10月の新入留学生歓迎会、バーベキュー、スポーツ大会など学生自身が企画し、交流を深める機会を作った。生活応援は減り、病院への付添い、生協でのアパート手続きなど数回の支援にとどまった。日本語学習支援も昨年度に引き続き少なかった。特に日本語授業への参加は、留学生の授業と日本人学生の授業の時間が重なってしまうことが多く、企画しても実現しないことが何度もあった。唯一、共通科目「日本事情」は恒常的にボランティアの学生が数名参加することができ、日本語科目ではないが、互いに意見を交わし合い、よい交流の場となった。

この活動をきっかけとして留学に興味をもつ学生も多く、交換留学・ILUNO参加者はボランティア登録者も多かったし、派遣留学、私費留学を問わず、留学後に支援ボランティアに加わる学生も多い。静大の留学生との交流はもちろんだが、この活動が留学への第一歩、あるいは帰国後の新たな目標設定と結びついてくれるような場となるようサポートを行っている。